

2020年度
講義概要（シラバス）
1年生

松江総合医療専門学校
理学療法士科

科目区分	基礎分野	履修条件		開講年次	1年
科目名	倫理学	単位数	2		
担当教員	川島典子	授業場所(教室)		教室	
実務経験	産経新聞大阪本社社会部記者などでの実務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	医療技術者に必要な倫理学について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	医療・保健・福祉の現場において専門職として従事するにあたり必要な職業倫理および人間の権利や尊厳全般について学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	患者さんや利用者さんとその家族に寄り添い、人間としての権利と尊厳を尊重し、より良い生活の質を保持し、生きがいをもって生きることができる支援の根幹となる倫理について理解する。				
回数	授業計画				
1	講義概要の説明、ロールプレイ(利用者が安心できる目線)				
2	人権とは何かー倫理学の概要・人権の概念と歴史・人権意識と職業倫理などー				
3	人間の尊厳とは何かー尊厳の定義と発想・日本国憲法や世界人権宣言における人権と尊厳ー				
4	医療現場や社会福祉の現場における人権-利用者の尊厳と信頼・家族の心理などー				
5	人権に関する新しい理論 (ノーマリゼーション、ソーシャル・インクルージョン・ユニバーサルデザイン)				
6	現代社会における人権1[貧困と人権]北九州おにぎり餓死事件・貧困と健康との関連など				
7	現代社会における人権2[児童と人権]児童虐待・いじめ・不登校・青少年の自殺など				
8	現代社会における人権3[障害と人権]ICFによる障害の定義・障害を持つ人たちとともに				
9	現代社会における人権4[高齢者と人権]高齢社会の現状・高齢者虐待・高次脳機能障害の支援				
10	現代社会における人権5[女性と人権]ジェンダーの概念・貧困化する高齢女性・女性支援施策				
11	人権問題の国際的動向(新来外国人・在日外国人・難民支援、北欧や欧米の法制度と事例紹介)				
12	援助の基本と倫理(1)自己覚知(自分の価値観・倫理観、自己の人格および形成史を書く)				
13	援助の基本と倫理(2)受容の原則 (言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション) ロールプレイ				
14	援助の基本と倫理(3)個別化の原則(4)自己決定の原則(5)秘密保持の原則				
15	まとめ(死生観と宗教的倫理、医学倫理、利用者やその家族の生や死と向き合う支援のための倫理)				
成績評価	出席および定期試験と小レポート				
教科書及び参考書	ミネルヴァ書房 木原活信『社会福祉と人権』(2014)				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	人権学習に関するDVDなど				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
教科書とノートを持ってくる。私語・居眠りは厳禁です。真剣に臨み、共に考える講義にしましょう					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	社会人基礎論	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	内田 賢	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、演習				
授業内容	社会人基礎力について学習する				
授業科目の 学習教育目標	社会人として、医療人として働くために基礎的な「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を基に、社会人として働くための要素を学習し、実生活で実践していく。				
到達目標 (行動目標)	社会人基礎力について理解し、スキルを身につける。				
回数	授業計画				
1	概論：社会人基礎力とは				
2	人間関係構築1コミュニケーション力 (仲間・協力・挑戦：研修)				
3	人間関係構築2コミュニケーション力 (仲間・協力・挑戦：研修)				
4	社会人にふさわしい言葉遣い1				
5	社会人にふさわしい言葉遣い2				
6	社会人としての文章表現				
7	前に踏み出す力1				
8	前に踏み出す力2				
9	考え抜く力1				
10	考え抜く力2				
11	チームで働く力1				
12	チームで働く力2				
13	人間関係構築3コミュニケーション力 (チームワーク研修)				
14	人間関係構築4コミュニケーション力 (チームワーク研修)				
15	情報管理について				
成績評価	小テスト、定期テスト				
教科書及び参考書					
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	基礎分野	履修条件		
科目名	統計学	単位数	2	開講年次 1年
担当教員	小林 裕太	授業場所 (教室)		教室
実務経験	大学教員として大学、専門学校での教育経験あり。			
授業形態	講義			
授業内容	統計学の基礎を学ぶ			
授業科目の 学習教育目標	健康や疾病にかかわる多くの現象は、数値化することによって客観的に理解することができ、その影響を化学的に推定することが可能となる。ここでは、評価や研究の基礎となる統計学を学ぶ。			
到達目標 (行動目標)	①統計の考え方について必要な事項を説明できる。②統計処理の方法について重要な事項を説明できる。③健康や治療にかかわるデータを統計処理する場合に適用すべき統計の方法を判断できる。④平均、分散、関連など基礎的な統計処理を行うことができる。			
回数	授業計画			
1	統計学を学ぶにあたって、統計資料の整理			
2	度数分布と平均値			
3	確率と事象、確率分布			
4	正規分布			
5	標本分布			
6	回帰と相関			
7	重回帰と重相関			
8	点推定と区間推定			
9	検定の考え方			
10	検定の考え方			
11	分散分析			
12	ノンパラメトリック検定			
13	検定の進め方			
14	母集団と標本			
15	研究の進め方			
成績評価	講義の際の小テスト (40%) とレポート (20%)、最終試験 (40%) で評価する			
教科書及び参考書	医歯薬出版 やさしい医療統計の統計学			
教材 (例: パソコン・ビデオ)				
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	情報処理実習	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	石川 謙二	授業場所 (教室)		パソコン教室	
実務経験	病院、会社などでのシステム作成、運営、管理の実務経験あり。				
授業形態	講義と演習				
授業内容	パソコン操作とWordによる文章の作成				
授業科目の 学習教育目標	基本的なパソコン操作を理解する。Wordを使用して基本的な文章の作成・図・オートシェープを使った作図・表の作成を学ぶ。Excelによる表計算の基本を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	Wordを使用して基本的な文章の作成・図・オートシェープを使った作図・表の作成ができる。 Excelを使った基本的な表計算ができる。				
回数	授業計画				
1	パソコンの取り扱いについて				
2	簡単な文章を作成してみる。文章の装飾・保存・読出し				
3	ファイルのコピー・貼り付け、文章のコピー・貼り付け				
4	文章の装飾、文章に図を挿入する				
5	インデント・ルーラーを使って文章の作成1				
6	インデント・ルーラーを使って文章の作成2				
7	インデント・ルーラーを使って文章の作成3				
8	表の挿入1				
9	表の挿入2				
10	図の挿入・オートシェイプ				
11	Excelの簡単な使い方				
12	Excelの簡単な関数を使う				
13	ExcelとWordをリンクして使う1				
14	ExcelとWordをリンクして使う2				
15	Excelグラフの作成				
成績評価	定期試験にて評価				
教科書及び参考書	なし				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	英語	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	林 満	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	英語教諭として、高等学校にて講師経験あり				
授業形態	講義および演習				
授業内容	授業 (Reading・Listening)				
授業科目の 学習教育目標	身近な健康問題を医療に限定せず社会的、心理的、環境的な話題に及び興味をもって英文を読解しその内容についてListeningする。				
到達目標 (行動目標)	英語のReadingとListeningのスキルの上達を目指す。				
回数	授業計画				
1	Unit 1. Sources of Happiness				
2					
3	Unit 2. Thin is Not In				
4					
5	Unit 3. Plants as a Source of Health				
6					
7	Unit 4. The Path to a Healthy Lifestyle				
8					
9	Unit 5. Keep the Brain Young				
10					
11	Unit 6. Friendship is Good for Older People				
12					
13	Unit 7. Love Yourself				
14					
15	復習				
成績評価	定期試験を重視するが、平常の授業活動も考慮する				
教科書及び参考書	Think Positive				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	英和辞書				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
英和辞書は持参する。授業は予習を前提に行います。					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	保健体育	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	三井 律子	授業場所 (教室)		体育館・グラウンド	
実務経験	公民館等、各種施設で体操講師経験あり。				
授業形態	実技				
授業内容	運動の意味や効果を理解する				
授業科目の 学習教育目標	自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかるとともに、運動の意味や効果の理解、運動することへの自覚を促進させる。				
到達目標 (行動目標)	心身の健康の保持、増進、体力の向上を図る。ニュースポーツ等経験しながら協調性を育む。				
回数	授業計画				
1	体力チェック①				
2	体力チェック②				
3	ニュースポーツの実際①				
4	ニュースポーツの実際②				
5	ニュースポーツの実際③				
6	心身の健康とチームワークビルディングについて①				
7	心身の健康とチームワークビルディングについて②				
8	健康と体力について①				
9	健康と体力について②				
10	ニュースポーツの実際④				
11	ニュースポーツの実際⑤				
12	ニュースポーツの実際⑥				
13	体力チェック③				
14	体力チェック④				
15	まとめ (振り返り)				
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する				
教科書及び参考書	なし				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	基礎分野	履修条件		
科目名	保健体育実習	単位数	1	開講年次 1年
担当教員	三井 律子	授業場所 (教室)		体育館、グラウンド
実務経験	公民館等、各種施設で体操講師経験あり			
授業形態	実技			
授業内容	ニュースポーツを経験する			
授業科目の 学習教育目標	身体運動の方法を学習し、健康の保持、体力の向上をはかる。また生涯スポーツの観点から ニュースポーツを主に学習する。			
到達目標 (行動目標)	心身の健康の保持、増進、体力の向上を図る。ニュースポーツ等経験しながら協調性を育む。			
回数	授業計画			
1	フィールドスポーツの実際①			
2	フィールドスポーツの実際②			
3	フィールドスポーツの実際③			
4	フィールドスポーツの実際④			
5	コートスポーツの実際①			
6	コートスポーツの実際②			
7	コートスポーツの実際③			
8	コートスポーツの実際④			
9	対人スポーツの実際①			
10	対人スポーツの実際②			
11	対人スポーツの実際③			
12	対人スポーツの実際④			
13	健康と体力について①			
14	健康と体力について②			
15	まとめ			
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する			
教科書及び参考書	なし			
教材 (例:パソコン・ビデオ)				
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	井上 貴央、椋田 崇 他	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	医師としての勤務経験と国立大学医学部などにて講義経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	人体の構造について学習する				
授業科目の 学習教育目標	解剖学は医学の基礎科目の一つで、身体構造を学ぶ学問であるが、身体の構造は人体の機能と極めて密接な関係にある。本講義では、解剖学の三つの柱である肉眼的解剖学、組織学、発生学の詳細を人体各臓器がどのような組織で構成されているかをその機能と関連付けて説明できるように理解する。				
到達目標 (行動目標)	人体の構造について構成する組織とともに、その機能と関連付けて理解し説明できる。				
回数	授業計画				
1	人体構造総論				
2	骨格系：骨組織と骨格の構造				
3	骨格系：軸骨格、付属肢骨格				
4	骨格系：関節の構造と機能				
5	骨格系：脊柱の構造				
6	骨格系：脊椎				
7	骨格系：上肢帯と胸郭(1)				
8	骨格系：上肢帯と胸郭(2)				
9	骨格系：上肢骨(1)				
10	骨格系：上肢骨(2)				
11	骨格系：骨盤帯				
12	骨格系：下肢骨(1)				
13	骨格系：下肢骨(2)				
14	筋・骨格系：頭蓋骨 (脳蓋骨)				
15	筋・骨格系：頭蓋骨 (顔面頭蓋)				
成績評価	定期試験により評価する				
教科書及び参考書	西村書店 カラー人体解剖学				
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、書画カメラ				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	井上 貴央、椋田 崇 他	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	医師としての勤務経験と国立大学医学部などにて講義経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	人体の構造について学習する				
授業科目の 学習教育目標	解剖学は医学の基礎科目の一つで、身体構造を学ぶ学問であるが、身体の構造は人体の機能と極めて密接な関係にある。本講義では、解剖学の三つの柱である肉眼的解剖学、組織学、発生学の詳細を人体各臓器がどのような組織で構成されているかをその機能と関連付けて説明できるように理解する。				
到達目標 (行動目標)	人体の構造について構成する組織とともに、その機能と関連付けて理解し説明できる。				
回数	授業計画				
1	筋・骨格系：頭蓋骨 (鼻腔)				
2	筋系：骨格筋の構造、上肢筋(1)				
3	筋系：上肢筋 (2)				
4	筋系：下肢筋 (1)				
5	筋系：下肢筋 (2)				
6	消化器系 (1)				
7	消化器系 (2)				
8	循環器系				
9	呼吸器系				
10	心臓血管系				
11	リンパ系				
12	視覚器、聴覚器				
13	泌尿器系				
14	生殖器系				
15	内分泌系				
成績評価	定期試験により評価する				
教科書及び参考書	西村書店 カラー人体解剖学				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、書画カメラ				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	青木 秀暢	授業場所(教室)		教室	
実務経験	市立病院の脳神経外科医の医師として臨床経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	脳・脊髄の構造について学習する				
授業科目の 学習教育目標	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を学ぶ学問である。それらの機能を学ぶのは脳生理学であるが、構造と機能は密接不可分の関係にある。臨床に役立つ脳神経解剖学、脳神経生理学を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を理解し、説明できる。また、それらの機能も合わせて理解する。				
回数	授業計画				
1	神経系総論 (1) 区分、発生				
2	神経系総論 (2) 構成、髄膜と脳室系、脳の血管系				
3	中枢神経系 (1) A脊髄				
4	中枢神経系 (2) B下位脳幹(延髄、橋、中脳)				
5	中枢神経系 (3) C上位脳幹(間脳(視床、視床下部)と脳幹網様体)				
6	中枢神経系 (4) D終脳(大脳皮質と髄質)				
7	中枢神経系 (5) E大脳辺縁系と大脳基底核				
8	中枢神経系 (6) F小脳				
9	中枢神経系 (7) G伝導路 (1) 下行性=運動系(錐体路と錐体外路)				
10	中枢神経系 (8) H伝導路 (2) 上行性=体性感覚系(四肢・体幹と頭部・顔面)				
11	中枢神経系 (9) I伝導路 (3) 特殊感覚系(感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、臭覚)				
12	末梢神経系 (1) A脊髄神経 (1) 上肢				
13	末梢神経系 (2) A脊髄神経 (2) 下肢				
14	末梢神経系 (3) B脳神経				
15	末梢神経系 (4) C自律神経				
成績評価	小テスト、課題レポート、定期試験のより総合的に評価する				
教科書及び参考書	医歯薬出版 PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート メディックメディア 病気がみえる Vol. 7脳・神経 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「生理学」「解剖学」 照林社 オールカラー まるごと図解 神経の見かた				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、DVD、CD				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件		
科目名	解剖学演習Ⅰ	単位数	2	開講年次 1年
担当教員	橋本 康平	授業場所 (教室)		教室・機能訓練室
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義			
授業内容	筋骨格系の解剖学について学ぶ。この科目では、構造の理解を中心にその機能についても学んでいく。			
授業科目の 学習教育目標	解剖書・骨模型のスケッチ、触診などを行ないながら、人体の構造と仕組みを総合的に理解する。			
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習では骨模型や学生お互いの身体を使って、骨や筋の触診を行う。積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をし、イメージを膨らませながら理解していく。			
回数	授業計画			
1	総論 解剖学の基礎知識			
2	骨学Ⅰ 頭蓋骨の理解			
3	骨学Ⅱ 脊柱の理解			
4	骨学Ⅲ 骨盤の理解			
5	骨学Ⅳ 肩甲帯、上腕の理解			
6	骨学Ⅴ 前腕～手指の理解			
7	骨学Ⅵ 大腿、下腿の理解			
8	骨学Ⅶ 足根、趾骨他の理解			
9	骨学Ⅷ 関節の機能・構造とその分類			
10	骨格筋系 総論 筋の種類と構造による分類、収縮の仕組み			
11	骨格筋系Ⅰ 上肢筋の解剖と機能の理解			
12	骨格筋系Ⅱ 下肢筋の解剖と機能の理解			
13	骨格筋系Ⅲ 体幹筋頸部・肩甲帯部の解剖と機能の理解			
14	骨格筋系Ⅳ 体幹筋腹部・背部の解剖と機能の理解			
15	組織・細胞系 組織・細胞の解剖と機能			
成績評価	定期試験70%・小テスト (理解度確認テスト) 20%、出席・授業態度10%を総合して判定する。			
教科書及び参考書	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで (西村書店)			
教材 (例：パソコン・ビデオ)	パソコン・プロジェクター			
メールアドレス	hashimo10@matsuecc.ac.jp			
備考 (受講に際する留意点など)				

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学演習Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	橋本康平	授業場所(教室)		教室・機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	神経系・呼吸循環器系・消化器系の解剖学について学ぶ。この科目では、構造の理解を中心にその機能についても学んでいく。				
授業科目の 学習教育目標	解剖書や模型を用いて内臓器官や感覚器官などスケッチも用い、立体的に理解する。				
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習では骨模型や学生お互いの身体を使って、スケッチや部位の確認などをおこなう。積極的に参加し、イメージを膨らませながら理解していく。				
回数	授業計画				
1	消化器系Ⅰ	口腔・歯・唾液腺・咽頭の解剖と機能			
2	消化器系Ⅱ	食道・胃・小腸・大腸の解剖と機能			
3	消化器系Ⅲ	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖と機能			
4	循環器系Ⅰ	心臓と大循環系			
5	循環器系Ⅱ	小循環系と冠動脈系			
6	循環器系Ⅲ	動脈、静脈、リンパ系			
7	呼吸器系Ⅰ	鼻腔、咽頭・喉頭			
8	呼吸器系Ⅰ	気管支、肺(～胚胞)			
9	内分泌系Ⅰ	視床下部・下垂体			
10	内分泌系Ⅱ	甲状腺、副甲状腺、副腎など			
11	泌尿器系Ⅰ	腎臓の解剖と機能			
12	泌尿器系Ⅱ	尿管・膀胱・尿道の解剖と機能			
13	外皮系	皮膚の解剖と機能			
14	生殖器系	生殖器の解剖と機能、ヒトの発生			
15	感覚器	一般感覚器、特殊感覚器(嗅角、味覚、平衡覚、聴覚器、視覚器)			
成績評価	定期試験70%・小テスト(理解度確認テスト)20%、出席・授業態度10%を総合して判定する。				
教科書及び参考書	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで(西村書店)				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン・プロジェクター				
メールアドレス	hashimo10@matsuecc.ac.jp				
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学演習Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年
実務教員	橋本康平	授業場所 (教室)			
臨床経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	脳・脊髄の構造について学習する				
授業科目の 学習教育目標	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を学ぶ。脳神経検査、感覚検査などの実習を通して中枢神経系・末梢神経系の構造と機能を理解する。解剖書のスケッチなどを行いながら脳・脊髄の構造について理解を深める。				
到達目標 (行動目標)	脳・脊髄などの中枢神経系の構造・形態・機能を説明できる。 脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態・機能を説明できる。				
回数	授業計画				
1	神経系総論 (1) 区分、発生				
2	神経系総論 (2) 構成、髄膜と脳室系、脳の血管系				
3	中枢神経系 (1) A脊髄				
4	中枢神経系 (2) B下位脳幹 (延髄、橋、中脳)				
5	中枢神経系 (3) C上位脳幹 (間脳 (視床、視床下部) と脳幹網様体)				
6	中枢神経系 (4) D終脳 (大脳皮質と髄質)				
7	中枢神経系 (5) E大脳辺縁系と大脳基底核				
8	中枢神経系 (6) F小脳				
9	中枢神経系 (7) G伝導路 (1) 下行性 = 運動系 (錐体路と錐体外路)				
10	中枢神経系 (8) H伝導路 (2) 上行性 = 体性感覚系 (四肢・体幹と頭部・顔面)				
11	中枢神経系 (9) I伝導路 (3) 特殊感覚系 (感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、臭覚)				
12	末梢神経系 (1) A脊髄神経 (1) 上肢				
13	末梢神経系 (2) A脊髄神経 (2) 下肢				
14	末梢神経系 (3) B脳神経				
15	末梢神経系 (4) C自律神経				
成績評価	小テスト、課題レポート、定期試験より総合的に評価する				
教科書及び参考書	メディックメディア 病気がみえる Vol. 7脳・神経 照林社 オールカラー まるごと図解 神経の見かた 医歯薬出版 PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「解剖学」				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、印刷資料				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	生理学Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	伊藤 真一	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	島根大学医学部の生理学講座にて講師経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	「生きている」ということの基礎にある細胞と内部環境について講義する。				
授業科目の 学習教育目標	神経、筋活動のもとになっている興奮という現象について説明する。ついで内分泌、性と生殖、筋収縮とその制御、筋電図、代謝と体温、運動生理を順次講義する。 最後に高次脳機能とその障害について解説する。				
到達目標 (行動目標)	患者のおかれた状態を理解する助けになるよう、また学生諸君が将来もっと深い知識や新しい知識を必要とする時に自分で学んでゆくだけの基礎学力を身につける。				
回数	授業計画				
1	生理学とは 細胞の構造 ホメオスタシス				
2	細胞間情報伝達の一般論、静止電位・活動電位の成因				
3	神経系の基礎				
4	脊髄反射の経路				
5	感覚				
6	感覚				
7	自律神経				
8	脳 (記憶と学習、情動)				
9	内分泌				
10	成長・生殖				
11	代謝生理学 (代謝と運動)				
12	体温 (体温と運動)				
13	筋収縮 (骨格筋の構造と収縮)				
14	筋収縮 (心筋と平滑筋: 骨格筋との比較)				
15	骨の生理学				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	PT・OTのための生理学テキスト/安藤啓司/文光堂				
教材 (例: パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	生理学Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	白石 義光	授業場所(教室)		教室	
実務経験	鳥取大学医学部の生理学講座にて講師経験あり				
授業形態	講義				
授業内容	呼吸・循環・消化・排泄機能や血液等について講義する				
授業科目の 学習教育目標	血液と体液の章では、体内に存在する水分すなわち体液と、その一部である血液の機能について学ぶ。循環と呼吸の章では、体外から取り込まれた酸素や栄養素は血液に入り、循環系によって体中に運ばれ、細胞の生命活動を支える循環系の機能を学ぶ。消化と吸収の章では、摂取された食物が、どのように消化され、吸収されるのか学ぶ。尿の生成と排泄の章では、腎臓で尿を作り、代謝で生じた老廃物や有害物質を排泄するとともに、血液や細胞外液の量、pH、浸透圧、電解質濃度などを調節して、体液の恒常性(ホメオスタシス)を保っているメカニズムを学ぶ。加齢の生理学では、加齢に伴って現れる生理機能の変化を学び、それにより老化を抑制する生活習慣の重要性を学ぶ。				
到達目標 (行動目標)	呼吸・循環・消化・排泄機能や血液等について理解する。				
回数	授業計画				
1	血液と体液。体液の区分と組成。血液の成分と血液量。				
2	赤血球とその機能。白血球とその機能。血小板とその機能。				
3	止血機能。血液型。				
4	循環。循環の概念。心臓の機能的解剖。心臓の電気的活動。心電図。				
5	心臓の血液拍出の仕組みとその調整。血管系の役割。				
6	動脈圧の調節。高血圧。				
7	呼吸。呼吸器の構成。呼吸と吸息。肺容量。				
8	肺胞換気と肺胞内ガス組成。血液によるガス運搬。血液のpH緩衝作用。				
9	呼吸中枢。呼吸の化学的調節。低酸素症。				
10	消化と吸収。消化管の構造。栄養素の消化と吸収。				
11	消化管機能の調節因子。消化液分泌。				
12	消化管運動。胃の運動。大腸での消化と吸収。				
13	腎の構造と機能。糸球体における濾過。尿細管での再吸収と分泌。				
14	腎血流とその調節。腎における酸塩基平衡。体液の調節。尿の組成と排尿。				
15	加齢の生理学。老化による身体の基本的な変化。老化を変える因子。				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	教科書：PT・OTのための生理学テキスト/安藤 啓司/文光堂 参考書：「生理学テキスト」大地 陸男/文光堂 系統看護学講座「解剖生理学—人体の構造と機能〔1〕」医学書院				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、資料				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
生理学Ⅰで学んだ神経系などの動物機能は理解したのとして、また解剖学も学んだものとして講義する。1年生でまだ医学用語、解剖学的知識が不足していると思うが、内容は理解できなくても前もって教科書を読んで、一度でいいので目を通してほしい。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	青木 秀暢	授業場所(教室)		教室	
実務経験	市立病院の脳神経外科医の医師として臨床経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	脳神経の機能について講義する				
授業科目の 学習教育目標	<p>脳神経系は運動や感覚、知・情・意などをつかさどる極めて重要な役割を持ち、いわば身体の司令塔である。収集された情報は中枢神経系で処理され、その伝達は末梢神経が担っている。神経系の疾患や障害は人間が生活していく上で計り知れない影響を及ぼす。</p> <p>脳解剖学は能・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経系の構造、形態を、脳生理学はそれらの機能を学ぶものであり、構造と機能は密接不可分の関係にある。出来るだけ臨床に役立つ脳神経解剖学、脳神経生理学を学んでほしい。</p> <p>脳神経外科は主にメスを用いて生かし、脳神経系を治療するもので、その画像診断や治療法の面でも著しい進歩が見られ、常に新しい知識を吸収する必要がある。我々が実際に経験した症例のスライドや手術ビデオなどを活用して視聴覚教育にも力を入れ、PT・OTとして臨床に十分役立てるようにしたい。</p>				
到達目標 (行動目標)	脳神経の機能について理解する				
回数	授業計画				
1	心の座は脳に、生の営みと統合系、三つの皮質、大脳辺縁系、大脳新皮質の機能局在				
2	脳幹・脊髄系の機能(1) 1)脊髄反射				
3	脳幹・脊髄系の機能(2) 2)中脳、橋、延髄の反射				
4	脳幹・脊髄系の機能(3) 3)脳幹網様体と脳神経				
5	脳幹・脊髄系の機能(4) 4)視床・視床下部－脳下垂体系、ホルモン				
6	小脳と大脳基底核				
7	中枢伝達物質、脳波と睡眠、大脳誘発電位				
8	ことば、記憶				
9	総論 1)意識障害、2)頭蓋内圧亢進、3)髄膜刺激症状、4)運動障害、5)言語障害、6)嚥下障害、7)呼吸障害、8)排泄障害				
10	特殊検査法				
11	救急初期治療と手術法概論				
12	頭部外傷				
13	脳血管障害				
14	脳腫瘍、感染症、正常圧水頭症、脊髄疾患など				
15	人生における心・技・体				
成績評価	小テスト、定期試験				
教科書及び参考書	PT・OTのための生理学テキスト/安藤 啓司/文光堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「生理学」医学書院 PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート (医歯薬出版) 病気がみえる Vol.7脳・神経 メディックメディア				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、DVD、CD				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
脳の実物の病理解剖標本を借りる機会があれば一緒に見てみたい。新しいノートを用意する。					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	内田賢、内田武、 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		教室	
実務経験	全員が総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	生理学Ⅰで学習する内容について専門用語の解説、説明をする				
授業科目の 学習教育目標	生理学Ⅰで学習する内容について、事前に生物学的な知見から学習し、生理学Ⅰの理解の一助とする。 生理学Ⅰの理解を深めるため解剖学的知識を学習する。				
到達目標 (行動目標)	人体の機能を学習し、疾病や病態との関連を理解し、理学療法の介入に役立てる。 人体の機能について理解し、説明することができる。				
回数	授業計画				
1	細胞、体液、電位、浸透圧、DNA等				
2	神経細胞、平衡電位、イオン、興奮、脱分極				
3	シナプス、伝達物質、抑制、促進等				
4	運動ニューロン、筋、感覚受容器、反射等				
5	刺激、順応、周波数、眼、前庭器官等				
6	皮膚感覚、分節、上行路、下行路等				
7	自律神経、節前・節後線維、視床下部、軸索反射等				
8	脳と神経の解剖、記憶等				
9	内分泌とは、化学物質、下垂体、甲状腺、副腎皮質等①				
10	内分泌とは、化学物質、下垂体、甲状腺、副腎皮質等②				
11	代謝とは、カロリー、メッツ、ワット等				
12	酸素摂取、酸素負債等				
13	張力、収縮、弛緩、ATP等				
14	心筋、興奮、骨構造等				
15	脳の前頭葉、前頭野、連合野、言語野、辺縁系、扁桃体等				
成績評価	小テスト、定期テスト、課題等総合的に判断する				
教科書及び参考書	生理学に準ずる、人体解剖学。				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	内田賢、内田武、 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		教室	
実務経験	全員が総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	生理学Ⅱで学習する内容について専門用語の解説、説明をする				
授業科目の 学習教育目標	生理学Ⅱで学習する内容について、事前に生物学的な知見から学習し、生理学Ⅰの理解の一助とする。 生理学Ⅱの理解を深めるため解剖学的知識を学習する。				
到達目標 (行動目標)	人体の機能を学習し、疾病や病態との関連を理解し、理学療法の介入に役立てる。 人体の機能について理解し、説明することができる。				
回数	授業計画				
1	血液成分、体液成分等				
2	赤血球、白血球、血小板等				
3	血液凝固と線維素溶解、血清、抗原等				
4	体循環と肺循環、血管の構造、リンパ等				
5	心臓の解剖等				
6	圧力とは、血圧の調整等				
7	呼吸器系の解剖等				
8	肺胞、拡散現象、pHとは等				
9	脳解剖、化学受容器等				
10	口腔、消化器系の解剖				
11	消化液等				
12	消化酵素、糖、タンパク質等				
13	泌尿器系の解剖等				
14	浸透圧、蓄尿反射と排尿反射				
15	老年期の特徴、身体機能の喪失、健康の喪失等				
成績評価	小テスト、定期テスト、課題等により総合的に判断する				
教科書及び参考書	生理学の教科書に準ずる。人体解剖学。				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	内田賢、内田武、 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		教室	
実務経験	全員が総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	生理学Ⅲで学習する内容について専門用語の解説、説明をする				
授業科目の 学習教育目標	生理学Ⅲで学習する内容について、事前に生物学的な知見から学習し、生理学Ⅰの理解の一助とする。 生理学Ⅲの理解を深めるため解剖学的知識を学習する。				
到達目標 (行動目標)	人体の脳神経機能を学習し、疾病や病態との関連を理解し、理学療法の介入に役立てる。 人体の脳機能について理解し、説明することができる。				
回数	授業計画				
1	脳皮質、大脳辺縁系、大脳新皮質の機能局在				
2	脊髄反射				
3	中脳、橋、延髄の反射				
4	脳幹網様体と脳神経				
5	視床・視床下部-脳下垂体系、ホルモン				
6	小脳と大脳基底核				
7	中枢伝達物質、脳波と睡眠、大脳誘発電位				
8	ことば、記憶				
9	中枢神経障害				
10	特殊検査法				
11	救急初期治療、手術療法				
12	頭部外傷				
13	脳血管障害				
14	脳腫瘍、感染症、正常圧水頭症、脊髄疾患など				
15	まとめ				
成績評価	小テスト、定期テスト、課題等により総合的に判断する				
教科書及び参考書	生理学の教科書に準ずる。人体解剖学。				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件		
科目名	運動学Ⅰ	単位数	2	開講年次 1年
担当教員	橋本康平	授業場所(教室)		教室・機能訓練室
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義			
授業内容	運動を行う上で必要な筋・神経機能や呼吸・代謝機能、姿勢や歩行の基本を学習する。			
授業科目の 学習教育目標	運動を行う上で必要な筋・神経機能や呼吸・代謝機能など運動生理学を理解する。また、随意運動の脳内メカニズムや運動学習の基礎理論を理解する。座位・立位姿勢のアライメントや歩行の基本的なバイオメカニクスを理解する。			
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。			
回数	授業計画			
1	生体力学の基礎①(身体運動と力学、時間と空間、円運動、筋力と重力、モーメント)			
2	生体力学の基礎②(身体運動と力学、時間と空間、円運動、筋力と重力、モーメント)			
3	生体の構造と機能(骨・関節の構造)			
4	生体の構造と機能(筋の構造と収縮機序)			
5	生体の構造と機能(筋線維の種類)			
6	生体の構造と機能(神経筋接合部と神経筋伝達、運動単位)			
7	生体の構造と機能(中枢神経機構、随意運動)			
8	生体の構造と機能(中枢神経機構、反射)			
9	運動時の身体の反応(呼吸・循環)			
10	運動時の身体の反応(栄養とエネルギー代謝)			
11	運動学習①(学習と記憶、運動技能、学習の諸理論)			
12	運動学習②(運動学習の神経生物学、練習と訓練)			
13	姿勢(座位・立位)の基本とアライメント観察			
14	歩行と走行(歩行周期、重心の移動、床反力、筋活動、分析)			
15	歩行と走行(高齢者・小児の歩行、異常歩行)			
成績評価	定期試験70%・小テスト(理解度確認テスト)20%、出席・授業態度10%を総合して判定する。			
教科書及び参考書	基礎運動学 第6版補訂 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン・プロジェクター			
メールアドレス	hashimo10@matsuecc.ac.jp			
備考(受講に際する留意点など)				
実技を行うことがあるので、動きやすい服装で受講してください。質問などあれば、講義中でも受け付けますので積極的に質問をして疑問を解決できるようにしてください。授業中の飲食・携帯電話の使用は原則禁止とします。				

科目区分	専門基礎分野	履修条件		
科目名	運動学Ⅱ	単位数	1	開講年次 1年
担当教員	内田 武	授業場所(教室)		機能訓練室・教室
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義、実技			
授業内容	四肢の関節運動のメカニズム、歩行のメカニズムについて学習する。			
授業科目の 学習教育目標	骨の形態、関節構造、筋の走行について学習をし、運動時特に歩行中にどのように作用しているのかを学習する。随意運動発現のメカニズムや反射のメカニズムと合わせて、歩行のバイオメカニクスについて説明できるようになる。			
到達目標 (行動目標)	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。これらを通して、理解度確認テストで十分な点数が取れるよう学習を行う。実習形式で実技を行う際には、デモンストレーションの模倣からはじめて、積極的に参加し繰り返し身体を使って練習をする。			
回数	授業計画			
1	骨盤(構造・解剖)			
2	骨盤(作用)			
3	下肢の構造			
4	股関節(構造・機能解剖)			
5	股関節(靭帯・筋)			
6	股関節(作用筋)			
7	膝関節(構造・機能解剖)			
8	膝関節(靭帯・筋)			
9	膝関節(作用筋)			
10	足関節(構造・解剖)			
11	足関節(靭帯・筋)			
12	足関節(作用筋)			
13	足部アーチ			
14	歩行観察			
15	歩行分析			
成績評価	定期試験70%・小テスト(理解度確認テスト)20%、出席・授業態度10%を総合して判定する。			
教科書及び参考書	基礎運動学 第6版補訂 筋骨格系のキネシオロジー原著第2版			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン・プロジェクター			
メールアドレス				
備考(受講に際する留意点など)				
実技を行うことがあるので、動きやすい服装で受講してください。質問などあれば、講義中でも受け付けますので積極的に質問をして疑問を解決できるようにしてください。授業中の飲食・携帯電話の使用は原則禁止とします。				

科目区分	基礎基礎分野	履修条件			
科目名	運動学Ⅲ	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	内田 武	授業場所(教室)		普通教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、実技				
授業内容	運動学の上肢・体幹について講義、実技を通して学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	理学療法士として必要な上肢・体幹の運動学を学び、患者様を評価、治療するために必要最低限の知識を習得する。				
到達目標 (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動のメカニズムについて解剖学的、生理学的視点を踏まえてメカニズムを理解する。 2. 人体の運動機構を理解して、動作や姿勢を観察できる。 3. 触診を踏まえて、実際に上肢や体幹を動かすことができる。 4. 運動学と理学療法評価について関連づけた考え方ができる。 				
回数	授業計画				
1	上肢帯と上肢の運動				
2	肩甲骨・肩鎖関節・胸鎖関節の構造と運動				
3	肩関節の構造と運動				
4	肩関節の構造と運動				
5	肘関節の構造と運動				
6	肘関節の構造と運動				
7	脊柱の構造(骨・靭帯・椎間板)				
8	頸部の構造と運動				
9	胸椎・胸郭の構造				
10	腰椎の構造と運動				
11	骨盤帯の運動				
12	手関節の構造と運動				
13	手関節の構造と運動				
14	指関節の構造と運動				
15	顎関節、顔面の筋(表情筋・咀嚼筋)				
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、定期試験などを総合的に評価する。				
教科書及び参考書	カラー版筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎基礎	履修条件			
科目名	人間発達学	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	鮫島 一雄	授業場所 (教室)			
実務経験	医療系専門学校での勤務経験と心身障害児を対象とした理学療法士としての臨床経験あり。				
授業形態	講義、演習				
授業内容	人間の発達過程を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	発達過程を人間が有機的成長・成熟と学習によって環境によりよく適応し、心理的、精神的機能を統合して過程としてとらえ、胎児期～高齢期における発達についての理解を目指す。 ライフステージにおける発達過程と取り組んでいる課題を理解し、各課題間の相互関係を考える力を身につける。人を生活の中でとらえ、家族の生活、役割を知る。				
到達目標 (行動目標)	乳・幼児期、小児期における運動発達、精神発達、言語発達について理解する。青年期、成人期、老年期における身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化について説明できる。				
回数	授業計画				
1	人減発達とは (発達概念の歴史の変遷、発達理論、姿勢反射、反応の発達)				
2	人間発達の各機能の発達 (総論)				
3	発達①胎児～2か月 (粗大運動、上肢機能、言語、視覚機能の発達、姿勢反射・反応)				
4	発達②3か月～5か月				
5	発達③6か月～9か月				
6	発達④10か月～12か月				
7	発達⑤13か月～18か月、1歳後半～6歳半				
8	発達⑥遊びの発達				
9	上肢機能・ハンドスキルの発達				
10	視覚・眼球運動、知覚・認知機能の発達				
11	言語・コミュニケーションの発達				
12	心理・社会性の発達				
13	ADLの発達・家族の生活とADLについて・食事動作の発達				
14	ADLの発達・家族の生活とADLについて・排泄動作・更衣・整容動作の発達				
15	ライフステージにおける家庭と社会の役割、生活活動の発達過程と取り組んでいる課題 (青年期～高齢期)				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「人間発達学」				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	基礎専門分野	履修条件			
科目名	小児科学	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	田中 雄二	授業場所 (教室)		教室	
実務経験	医師として病院にて実務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	小児科疾患について講義する				
授業科目の 学習教育目標	理学・作業療法の対象となる可能性の高い神経・筋・骨格系疾患とそれと関連の深い新生児・未熟児疾患や先天異常、遺伝病を中心に講義する。また、対象児が上記以外の疾病を併せ持つことは稀ではなく、将来、小児に接する上で必要ないろいろな病状や病態についても概説する。				
到達目標 (行動目標)	小児科疾患について病状や病態、治療等について理解する				
回数	授業計画				
1	小児科学概論、診断と治療の概要				
2	新生児・未熟児疾患 1				
3	新生児・未熟児疾患 2				
4	先天異常と遺伝病 1				
5	先天異常と遺伝病 2				
6	神経・筋・骨格系疾患 1				
7	神経・筋・骨格系疾患 2				
8	神経・筋・骨格系疾患 3				
9	循環器疾患				
10	呼吸器疾患、感染症				
11	感染症、消化器疾患				
12	内分泌・代謝疾患、血液疾患				
13	免疫・アレルギー疾患、膠原病				
14	腫瘍性疾患、腎・泌尿器、生殖器疾患				
15	心身症・神経症、重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「小児科学」医学書院				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	リハビリテーション概論	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	関 龍太郎 他	授業場所(教室)		教室	
実務経験	医師として病院での実務経験あり。また保育所長を歴任し様々な事業に携わる。				
授業形態	講義				
授業内容	リハビリテーションの概略を理解する				
授業科目の 学習教育目標	リハビリテーションの定義、目的、種類、過程等概略を学習する。日本の福祉制度や社会保障制度について学習する。				
到達目標 (行動目標)	リハビリテーションについて総括的に理解する。リハビリテーションの理念、社会保障論等を理解し、理学療法士の役割、他職種との多職種連携について理解する。				
回数	授業計画				
1	リハビリテーションとは(定義、種類、目的、歴史)				
2	リハビリテーションと疾病				
3	リハビリテーションの段階				
4	リハビリテーションの過程1(評価とプログラム)				
5	リハビリテーションの過程2(介入手段、他職種連携)				
6	障害について 病気と障害、自立支援、就労支援				
7	介護保険とリハビリテーション				
8	社会保障制度(社会保険制度)				
9	社会保障制度(社会福祉と公的扶助制度)				
10	災害とリハビリテーション				
11	日本の医療制度				
12	医療のリスクマネジメント				
13	医療従事者の心得と資質				
14	インフォームドコンセントとQOL				
15	医療の常識と非常識				
成績評価	出席状況、授業態度、試験により総合的に評価する				
教科書及び参考書	教科書：医歯薬出版 中村隆一著「リハビリテーション概論」 参考書：国民衛生の動向 図説版 最新版 厚生労働統計会 国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計会 保険と年金の動向 厚生労働統計会				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、DVD				
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法概論	単位数	2	開講年次	1年
担当教員	内田 賢	授業場所(教室)		教室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義				
授業内容	理学療法(士)の概要および関連する基本的知識について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の定義や歴史、障害について、また、リハビリテーションにおける理学療法の役割など理解する。				
到達目標 (行動目標)	基本的な理学療法について説明でき、理学療法の介入方法(治療方法)について説明できる。				
回数	授業計画				
1	理学療法(士)とは、定義 法律 倫理、使命				
2	養成について 学習内容、教育の歴史、臨床実習、生涯学習				
3	理学療法の歴史、世界の理学療法				
4	リハビリテーションとの関係 ノーマライゼーション				
5	一般的な理学療法の流れ PT評価、臨床推論、記録				
6	障害について(ICIDHとICF)				
7	治療1 評価方法、運動療法				
8	治療2 物理療法、ADL、患者教育				
9	PTの対象疾患1(骨関節疾患、中枢神経疾患、末梢神経疾患)				
10	対象疾患2(内部障害系疾患、疼痛、皮膚障害、がん、緩和ケア、精神疾患等)				
11	対象疾患3(地域理学療法、健康維持・増進、介護予防、産業理学療法等)				
12	急性期、回復期、維持期の理学療法				
13	理学療法士の勤務先・職域、多職種連携				
14	社会保障制度について1 年金、労災保険				
15	社会保障制度について2 診療報酬・介護報酬				
成績評価	定期試験、小テスト、出席状況、授業態度により総合的に評定する				
教科書及び参考書	理学療法概論テキスト/細田多穂監修/南江堂				
教材 (例:パソコン・ビデオ)					
メールアドレス					
備考(受講に際する留意点など)					
理学療法について基本的なことを学びます。教科書、参考書以外も参考に知識を整理してください 毎回、前回の復習のための小テストを行います。しっかり復習をしてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法Ⅰ (四肢周径・ROM等)	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	安平 光一郎	授業場所 (教室)		教室・機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、実技				
授業内容	理学療法における評価の意義・目的を理解し、基本的評価技術の習得及び結果の解釈について学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法評価・目標設定・理学療法プログラム立案の流れを理解する。 理学療法の基本的評価技術 (問診・バイタルサイン・形態測定・関節可動域測定) を習得する。				
到達目標 (行動目標)	理学療法評価の一連の流れを説明できる。 各検査の方法及び注意点を説明できる。 上記の基本的評価技術が安全に実施でき、情報が整理できる。				
回数	授業計画				
1	理学療法評価の意義と目的				
2	理学療法評価の過程と手順				
3	理学療法評価の対象 (ICFとICIDH)				
4	評価方法の種類・評価時期と目的				
5	記録・問題リストの整理の仕方				
6	医療面接				
7	形態測定①				
8	形態測定②				
9	形態測定③				
10	関節可動域測定①				
11	関節可動域測定②				
12	関節可動域測定③				
13	関節可動域測定④				
14	バイタルサイン確認				
15	まとめ				
成績評価	定期試験 (7割)、実技試験 (3割) で合否を判定する。				
教科書及び参考書	理学療法評価学 改訂第6版/著:松澤正・江口勝彦				
教材	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					
実技の習得には練習が必要です。各自時間を作って繰り返し練習すること。					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	理学療法評価法実習Ⅰ (MMT)	単位数	1	開講年次
担当教員	安平 光一郎	授業場所 (教室)	機能訓練室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。			
授業形態	講義・演習・実習			
授業内容	ある特定の筋、筋群がどの程度の筋力低下があるか、または麻痺があるか、それが治療によってどの程度まで回復したかを徒手筋力検査法を使って評価する。患者の将来の社会復帰に対する目安を付けるための評価法である。これらの基本的な考え方や技術を習得し、関連要因を把握する評価を学ぶ。			
授業科目の学習教育目標	基礎となる筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。 徒手筋力検査法 (MMT) を習得し、筋力低下の程度と関連要因を把握する評価を実施する。 評価を行う上で必要となる対象者へのコミュニケーション技術、配慮、リスク管理を身につける。			
到達目標 (行動目標)	①筋の起始・停止・作用・神経支配を列記する。 ②対象者の状態より筋力低下している部分を推測する。 ③MMTを習得し、筋力低下の程度を評価する。 ④評価を行う上でリスク管理を徹底する。 ⑤対象者への負担に配慮しつつ、医療人として適切にコミュニケーションする。			
回数	授業計画			
1	筋力検査の目的、MMT判定基準、MMTの実施、代償運動			(総論)
2	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(導入・下肢)	
3	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)	
4	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)	
5	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)	
6	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)	
7	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(下肢)	
8	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)	
9	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)	
10	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)	
11	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(上肢)	
12	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)	
13	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)	
14	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(体幹)	
15	各論及び実技	徒手筋力検査実技	(顔面)	
成績評価	実技試験 (50%)、筆記試験 (50%)			
教科書及び参考書	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」 共同医書出版社、配布資料			
教材 (例:パソコン・ビデオ)	教科書、筆記用具			
メールアドレス				
備考 (受講に際する留意点など)				
動きやすい服装で参加してください。わからないことは教材を見返し、教員やクラスメートに質問したり、実技演習などを通じて理解を深めてください。授業時間のみでは実技を習得することは困難であり、自己研鑽に励んでください。 授業中の飲食は禁止します。必要時には、許可を取ってから教室の出入りをしてください。携帯電話は電源を切ること。				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法実習 (ROM-EX等)	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所 (教室)		教室・機能訓練室・治療室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、実技				
授業内容	疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術の知識、技術を身につける。				
授業科目の 学習教育目標	①疼痛の病態とそのメカニズムについて説明できる ②筋緊張異常の病態とそのメカニズムについて説明できる ③関節可動域制限の病態とそのメカニズムについて説明できる ④筋力低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑤運動麻痺の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑥感覚異常の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑦平衡機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑧認知機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる				
到達目標 (行動目標)	各種障害のメカニズムを理解する。 運動の種類や効果を理解し、目的に合った運動療法の提案ができる。				
回数	授業計画				
1	関節可動域制限の運動療法 1				
2	関節可動域制限の運動療法 2				
3	筋力低下に対する運動療法 1				
4	筋力低下に対する運動療法 2				
5	持久力低下に対する運動療法 1				
6	持久力低下に対する運動療法 2				
7	運動麻痺に対する運動療法 1				
8	運動麻痺に対する運動療法 2				
9	筋緊張異常に対する運動療法				
10	平衡機能低下の運動療法 1				
11	平衡機能に対する運動療法 2				
12	感覚異常に対する運動療法				
13	疼痛に対する運動療法 1				
14	疼痛に対する運動療法 2				
15	認知機能低下の運動療法				
成績評価	出席状況 (1割)、定期試験 (9割) にて評価する。				
教科書及び参考書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版/編集:吉尾雅春・横田一彦 理学療法テキストIII 運動療法I 第2版/監修:千住秀明 編集:河元岩男・溝田勝彦				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考 (受講に際する留意点など)					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	物理療法学	単位数	1	開講年次	1年
担当教員	内田賢、内田武 安平光一郎、橋本康平	授業場所（教室）		教室・治療室	
実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業形態	講義、実技				
授業内容	物理療法の種類や効果・禁忌などを学び、安全に物理療法を実施する技術を身につける。				
授業科目の 学習教育目標	物理療法の種類を理解する。 物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法）の適応・禁忌・実施方法について説明できる。 物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法）を実際に使用する。				
到達目標 (行動目標)	物理療法の種類について説明できる。 上記した療法の適応・禁忌・実施方法について理解し、安全に物理療法を実施できる。				
回数	授業計画				
1	物理療法の種類と特徴				
2	痛みのメカニズム				
3	温熱療法の適応・禁忌				
4	温熱療法の実施方法				
5	寒冷療法の適応・禁忌				
6	寒冷療法の実施方法				
7	光線療法の適応・禁忌				
8	光線療法の実施方法				
9	超音波療法の適応・禁忌				
10	超音波療法の実施方法				
11	電気刺激療法の適応・禁忌				
12	電気刺激療法の実施方法				
13	牽引療法の適応・禁忌				
14	牽引療法の実施方法				
15	まとめ				
成績評価	小テスト（2割）、レポート（2割）、定期試験（6割）で合否を判定する。				
教科書及び参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 改訂第2版				
教材 (例:パソコン・ビデオ)	パソコン、プロジェクター、物理療法機器				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					